



# JAAGA だより

日米エアフォース友好協会  
Japan-America Air Force Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会  
〒160-0002  
東京都新宿区四谷坂町9番7号  
ZEEKS 四谷坂町ビル 3F  
編集：JAAGA 事務局  
印刷：東仲社  
ホームページ：http://www.jaaga.jp/

## つばさ会 / JAAGA 訪米成果報告 Tsubasa-kai / JAAGA US visit report session

### はじめに

丸茂 JAAGA 会長を団長とする令和 6 年度の JAAGA 訪米団は、9 月 12 日(木)から 20 日(金)までの 9 日間にわたる米国訪問を実施した。今年度は、ハワイの太平洋空軍司令部を訪問し司令官、副司令官及び司令部スタッフを交えてのラウンドテーブル、インド太平洋軍司令部参謀副長との意見交換、太平洋 IAMD センターでの意見交換などを実施した後 DC へ移動した。DC では米空軍・宇宙軍協会 (Air and Space Forces Association : AFA) が主催する航空宇宙サイバーカンファレンス 2024 (Air, Space & Cyber Conference 2024:ASCC2024) への参加、米空軍・宇宙軍高官との直接の意見交換、並びに JAAGA 名誉会員等との交流行事を実施し、JAAGA 設立の目的でもある日米空軍種間の友好親善を促進することに寄与し日米間で関心の高い事項に関する最新の情報を入手することができた。

特に、ハワイではインド太平洋地域におけるインド太平洋軍及び太平洋空軍の戦略や日米協力の強化など十分な議論ができ ACE (Agile Combat Employment) や指揮統制などについて更に理解を深めることができた。また、ASCC2024 では、米航空宇宙軍を主導するケンドール空軍長官 (Frank Kendall, Secretary of USAF)、オールヴィン米空軍参謀長 (Gen David W. Allvin, Chief of staff of USAF) 及びサルツマン米宇宙軍作戦部長 (Gen B. Chance Saltzman, Chief of Space Operations, US Space Force) の



Tsubasa-kai and JAAGA US visit members

現状認識と再最適化の進捗状況等を確認することができた。このほか、将来空軍の概念を担当する空軍参謀本部参謀次長のハリス中将 (A-5/7) 及び宇宙作戦部長外交政策アドバイザーであるガスパード氏から将来の空軍宇宙軍の姿や目指す方向性等について意見を交わすことができた。

令和 6 年度訪米団参加者は以下のとおり。

- 団 長：丸茂吉成 会長 (三菱電機株式会社)
- 副団長：井筒俊司 副会長 (株式会社アストロスケール)
- 団 員：前原弘昭 副会長 (三菱重工業株式会社)  
荒木淳一 副会長 (川崎重工業株式会社)  
井上浩秀 JAAGA 理事 (株式会社 IHI)  
上ノ谷寛 JAAGA 理事 (双日株式会社)  
引田 淳 JAAGA 理事 (三菱商事株式会社)  
西谷浩一 JAAGA 理事 (川崎重工業株式会社)

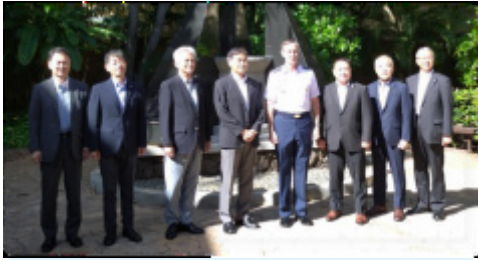
### ～ だより 第 67 号 目次 ～

つばさ会 / JAAGA 訪米成果報告	1	航空宇宙群紹介コーナー	20
第 35 戦闘航空団指揮官交代式	4	米空軍将校航空自衛隊勤務だより	21
ラップ中将への JAAGA 名誉会員委嘱	5	航空自衛隊コーナー	23
「シルバー・フラッグ (多国間共同訓練)」	6	レイモンド元大将、コシンスキー元中将来日	24
「タラン・シャクティ 24 (多国間共同演習)」	7	支部だより (横田 AB・三沢 AB)	25
横田基地日米友好祭 2024 開催	8	新人会員紹介	26
令和 6 年度 JAAGA 横田基地等研修	10	賛助会員の皆様へ	27
米空軍士官学校留学生支援「日光研修」	14	投稿募集のご案内	27
米空軍コーナー	16	JAAGA グッズの紹介	27
在日米軍司令官交代	18	会員募集	28
米軍基地スペシャルオリंपクス開催	19	編集後記	28

## 1 太平洋空軍司令部等訪問

### (1) インド太平洋軍司令部副参謀長リチャード大佐との意見交換

リチャード大佐は着任直後だったが、前職は第35戦闘航空団司令官（三沢）でもあり



JAAGA members make a courtesy visit to USINDOPACOM HQ

Area of Responsibility (AOR) の状況認識は良く理解されており、中国軍の評価や地域の防衛に関して戦略的視点に立った意見交換ができた。また、インド太平洋軍司令官パロ大將は同盟国等とのパートナーシップを最も重視しているとのことで、日米関係を中核とした多国間関係の構築を進めることで、大国間競争に対応していくことで意見は一致した。

### (2) 太平洋空軍司令部におけるラウンドテーブル

シュナイダー司令官等との懇談に引き続き司令部部長等も交えたラウンドテーブルは今回の訪米のメインイベントになったほど充実したものだ。太平洋空軍の戦略ポイントについて説明を受けた後、演習や訓練、IAMD (Integrated Air and Missile Defense)、ACE、在日米軍のC2強化など太平洋地域のテーマに加え、ウクライナ・ロシア戦争の教訓などにも話が及び2時間近くにも及ぶ議論もあったという間に終わったが、シュナイダー司令官は、敵対勢力が持っていない我々の優位性（①同盟国等とのネットワーク、②統合戦力、③情報力）を活かして平和の安定維持を追求するという方針を示されていた。

### 2 PIC (Pacific IAMD Center) 訪問

インド太平洋軍並びに同盟国、パートナー国の IAMD 能力強化を支援する組織で、日本、韓国、豪州のハイエンド・パートナー国に加え多数の国々を ASP (Air defense missile Shooting Practice) や教育プログラムに招いて関係強化を進めている。新たな取り組みの一つである日米 Test-bed は、来年の実施に向けて準備は順調に進んでいるようであった。

### 3 ハワイにおけるその他の活動

シュナイダー司令官官舎での夕食会、JAAGA 主催昼食会、兒玉ハワイ総領事主催夕食会、マキキ日本人墓地慰霊献花、空自連絡官等慰勞昼食会などを実施した。

### 4 AFA 主催の ASCC2024 への参加

9月16日(月)～18日(水)の3日間、ワシントンDCで行われた会議には、米軍人、諸外国の軍人、退役軍人等が参加しており、昨年同様活気溢れる会議だった。会

議を通じて、ケンドール空軍長官、オールヴィン空軍参謀長及びサルツマン宇宙作戦部長の情勢認識及びビジョンについて理解するとともに、再最適化の進捗について最新の状況を確認することができた。

展示会では、既存システムの最新モデルや CCA (Collaborative Combat Aircraft) を含む無人装備品のモックアップをはじめ、宇宙関連のシステムや器材が目立ったが、AI やロボティクス、シミュレーション技術など科学技術の進歩の速さを改めて感じさせる内容だった。

### (1) ケンドール空軍長官の基調講演

「大国間競争に勝利するための変革の実行」とのテーマで昨年公表した7つの必須事項進捗状況を説明した。

- ① 宇宙：コンステレーションの契約、カウンタースペース・プログラムの開始
- ② 指揮統制：JFN (Joint Fires Network) と Battle Management の統合化を空軍主導で推進
- ③ ターゲティング：国家偵察局との連携による宇宙センサーの利用
- ④ 次世代制空システム：Next Generation Air Dominance (NGAD) 開発は見直し（一時停止）、CCA の自律性開発は順調
- ⑤ 基地の強化：移動式支援機器の取得、積極防空の実施
- ⑥ 地球規模攻撃：B-21 及びセンチネルプログラムは継続推進
- ⑦ レディネス：機動性、電子戦、軍需品、訓練・試験を焦点に推進



Frank Kendaal, Secretary of the US Air Force gives a speech "Implementing Change to prevail in Great Power Competition"

そして再最適化の具体的施策を示した24の重要決心事項に沿った施策推進を強調していた。

これに合わせ空軍

省内に3つのオフィス（統合能力、プログラム分析・評価、競争活動）を設置してスピードと統合を重視した取り組みを進めていくとのこと。

### (2) オールヴィン空軍参謀長の基調講演

「一つの空軍」と題し、変化を繰り返してきた空軍の歴史を再確認し、将来の空軍への変革のための取り組みの進捗について説明した内容だった。主な取り組みは、

#### ① コマンドの新改編

・能力開発の統合を任務とする統合能力コマンド (Integrated Capabilities Command (ICC)) を新編 (2025

年 FOC、暫定司令部は 9 月に開設)

- ・ ICC の新編に伴い空軍資材コマンドを改編し、3つのシステムセンター（制空システムセンター、核システムセンター、情報優越システムセンター）を新改編し、研究開発の中核拠点に

- ・ 空軍教育訓練コマンド（Air Education and Training Command (AETC)）を航空兵開発コマンド（Airman Development Command (ADC)）に改編し、エアマン育成に関して一人の司令官が全責任を負う体制に変更

## ② 戦闘機部隊の変革

- ・ 戦闘航空団、航空基地航空団、組織航空団に区分
- ・ 展開可能航空団編成にし将来 24 個を配備
- ・ 戦闘即応性検査の開発

## ③ 大規模演習の実施

来年夏、スピード、規模、ACE 作戦、維持、指揮統制に焦点を当てた大規模演習を実施し、作戦の効果などを検証



Gen Saltzman, Chief of Space Operations, US Space Force gives a spirited speech

## (3) サルツマン宇宙作戦部長の基調講演

宇宙軍が取り組んでいる 4つのプロセスそれぞれに具体的施策が進んでいる状況を説明するとともに、宇宙の優越が統合戦力の要でもあり、

宇宙軍のサービスを更に高度なものにしていく意気込みが感じられる講演だった。

### ① 戦力設計

- ・ 宇宙軍の運用コンセプトを定義し、戦力を具体化するための宇宙未来コマンド（Space Futures Command）を新編するほか、英国空軍ゴッドフリー中將を作戦本部スタッフに登用し、統合や同盟国との連携を推進

### ② 戦力開発

- ・ 役割、責任、任務のガイダンスを公表（ガーディアンの理解を促進）
- ・ 新任将校教育課程や下士官・文官教育課程の開始
- ・ 宇宙軍人事監理法に基づく、人事管理の抜本的改革

### ③ 戦力生成

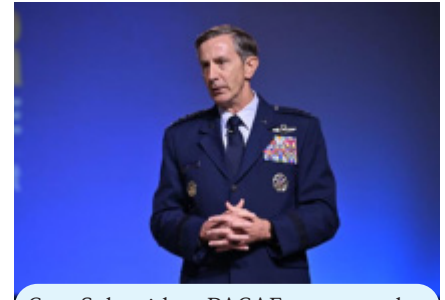
SPAFORGEN（Space Force Generation）モデルの試行と検証を SPOC にて実施中

### ④ 戦力使用（投入）

宇宙戦力を統合軍により良く提供するため、SF-Space の立ち上げや幾つかのサービスコンポーネント司令官格上

## (4) シュナイダー太平洋空軍司令官の基調講演

大国間競争の最前線となる地域担任である司令官として、「インド太平洋地域における準備と普及」とのテーマで講演されたが、以下の 2点について特に強調されていた。



Gen Schneider, PACAF commander speaks on Indo-Pacific challenges opportunities

### ① 敵の有しない私の優位性

同盟関係やパートナーシップによるネットワーク、兵士（特に NCO）、統合・共同作戦能力の 3つの優位性を活かして抑止力及び対応力を向上させることが重要

### ② 一歩先行くための取り組み

コープサンダーやピッチブラックなど多様な 2 国間・多国間演習の実施、ACE の進化、爆撃機任務部隊の展開 (A2AD 環境下での打撃力確保)

### (5) パネルディスカッション

分担して 26 セッションを聴講した。（内容は省略）

## 5 米空軍宇宙軍シニアリーダーとの意見交換

### (1) ハリス空軍参謀本部参謀次長 (A5/7)

将来空軍の設計も担当しているハリス中將は、再最適化の中核を担うスタッフであり、新たなコマンドである統合能力コマンド (ICC)、次世代制空システム (NGAD)、指揮統制システム (C3BM) を中心として意見交換した。

### (2) ガスパード宇宙作戦部長外交政策アドバイザー

作戦部長と頻りに情報共有していることもあって、成長中の宇宙軍の取り組み全般について包括的な意見交換及び航空自衛隊との協力について議論した。

## 6 JAAGA 名誉会員等との交流

### (1) JAAGA 名誉会員等との夕食会

今回はシュウォーツ元空軍参謀総長宅で実施していただき、昔話に加え日本の防衛予算増額や防衛力の抜本的強化などについて話は盛り上がり、現役は勿論のこと OB の日米関係も更に強固にしていくことで意見は一致した。

米側の参加者は、以下のとおり。

- ・ シュウォーツ退役大將（元空軍参謀長）夫妻
- ・ ライト退役中將（元第 5 空軍司令官、前 AFA 会長）
- ・ ドーラン退役中將（元統合参謀本部第 3 部長）
- ・ フィールド退役中將（AFA 会長、元空軍参謀本部参謀次長）夫妻
- ・ ノース退役大將（元太平洋空軍司令官）
- ・ レイモンド退役大將（前宇宙作戦部長）夫妻
- ・ シュナイダー大將（太平洋空軍司令官）
- ・ コシンスキー中將（統合参謀本部第 4 部長）（当時）



A retirement celebration is being held for Lt Gen Kosinski (left)

(2) コシンスキー中将退官式典

DC 訪問中の9月18日、JAAGA 名誉会員であるコシンスキー中将の退官式典が国防総省で開催され、訪米団全員が招待された。ブラウン統合参謀本部議長立会のもと、奥様や3人のお子様も参加され厳かに式典は行われた。その後、郊外で開催されたカジュアルパーティーでは和やかな雰囲気の中で中将の退官を皆でお祝いした。

7 山田駐米大使表敬訪問

山田駐米大使への表敬訪問を実施し、米国情勢などについての意見交換を行った。冒頭、丸茂団長から訪米の成果、並びに米空軍、宇宙軍及び航空自衛隊の課題などについて説明を行い、大使からは日米関係強化に関する JAAGA の活動への慰労と謝意をいただくとともに、米国内の対中観の劇的な変化、米国の日



Sigeo Yamada, Japanese Ambassador to the US

本に対する期待の大きさ、その期待を落胆に変えないための努力が重要である等のお話をいただいた。

おわりに

今回の JAAGA だよりでは訪米団の活動の概要についてお伝えしましたが、訪米成果については令和7年2月に実施する報告会においてあらためてご報告するので、空幕部長等講演に合わせて実施される成果報告会に奮ってご参加いただきますようお願い申し上げます。

最後に、今回の訪米は多くの方々のご協力により実施することができました。あらためてこの場を借りて御礼申し上げます。訪米事業にご協力いただいた方々は、以下のとおり。

- ・航空幕僚監部 総務課、防衛課、運用支援課、情報課
- ・米国防衛駐在官 中里 1 佐、井上 2 佐
- ・PACAF 連絡官・交換幹部等 五代 1 佐、渡邊 2 佐、西浦 2 佐、村上 2 佐、石田 2 佐、梶浦 1 尉
- ・ハワイ明治会の皆様
- ・訪米団員所属企業の皆様
- ・全日空株式会社の皆様
- ・JAAGA 名誉会員の皆様
- ・つばさ会及び JAAGA 会員の皆様

(引田理事記)



## 第 3 5 戦闘航空団指揮官交代式 35th Fighter Wing Change of Command Ceremony

米軍第 35 戦闘航空団の指揮官交代式が、7月8日、米軍三沢基地格納庫内で在日米軍司令官兼第5空軍司令官リッキー N. ラップ中将 (Lt Gen Ricky N. Rupp, Commander of USAF Japan and 5th



AF) 執行のもと行われた。

マイケル P. リチャード大佐 (Col Michael P. Richard) がインド太平洋軍副幕僚長に転出し、韓国の

鳥山(オサン)基地第51航空団副司令官のポール T. デイビッドソン大佐 (Col Paul T. Davidson) が着任した。交代式には航空自衛隊北部航空方面隊司令官亀岡空将、小松山三沢市長、米軍、自衛隊や三沢市米軍関係者等、約 300 名が出席した。JAAGA からは、丸茂会長代理として池添三沢支部長が参列した。

交代式では、最初にリッキー N. ラップ中将から、リチャード大佐の労をねぎらうとともに、米軍基地関係者に謝意を述べた後、2年間の米国国家安全保障上の利益を守り、日米同盟及びパートナー国を防衛し、世界からの侵略を阻止し、そして要請があれば戦って勝

利するという任務を遂行した功績を称え、リチャード大佐に勲章が授与された。

次に、リチャード大佐がラップ中將に指揮権を表す軍旗を返還し、引き続き、ラップ中將からデイビッドソン大佐へ軍旗が手渡された。また、第35戦闘航空団司令官専用機のF-16戦闘機の名前がデイビッドソン大佐に張り替えられた。

デイビッドソン大佐は2004年から2007年まで三沢基地に勤務し、飛行安全、兵器教官パイロット、



飛行評価官などを経験した。また、第64アグレッサー隊運用部長、群山(クンサン)基地第8作戦支援隊長、米空軍長官国際部F-35部門主任、北アメリカ航空宇宙防衛司令部アメリカ北方軍にてJ521主任などの要職に就いている。イラクでの戦闘任務経験もあり2000時間以上の飛行時間を有する上級操縦士である。

デイビッドソン大佐は着任挨拶で「地域の一員として歓迎してくれていることに感謝するとともに、同盟強化につながるよう、皆様と交流を深めることをとても楽しみにしている」と抱負を述べた。

最後は米空軍歌で氣勢を上げ閉会となった。

(池添三沢支部長記)

## ラップ中將への J A A G A 名誉会員委嘱 Lt Gen Rupp is commissioned as a honorary member of JAAGA

9月3日(火)、横田基地第5空軍司令官室において在日米軍司令官兼第5空軍司令官ラップ中將(Lt Gen Ricky N. Rupp, Commander of US Forces Japan and 5th Air Force)へのJAAGA名誉会員委嘱式が行われた。



委嘱式には米側からラップ司令官、第5空軍副司令官シュッテ准將(Brig Gen(S) John M. Schutte, Deputy Commander of 5AF)が出席、JAAGAからは丸茂会長、武藤理事長、増子副理事長及び太田理事が出席した

ラップ司令官は、SWテキサス州立大学サンマルコス校を1988年に卒業後、空軍に入隊。C-130E、C-130J、E-3、C-17、T-38等に搭乗し5,000時間以上の飛行時間を持ち、2021年8月から在日米軍司令官兼第5空軍司令官として勤務された。この間、在日米軍を代表して、日米安全保障問題の管理、統合・共同訓練の監督、日米地位協定の運用、戦闘即応態勢の改善、66,000人の軍人・軍属及び45,000人の扶養家族の生活の質の向上に尽力された。

名誉会員委嘱にあたり、丸茂会長からラップ司令官に対し、米空軍と航空自衛隊の相互理解と友好親善に寄与していただいたことへの謝意と、今後は名誉会員として日米両国の親善の架け橋になっていただくことを要望し、委嘱記念盾が贈呈された。ラップ司令官からは「名誉会員となる

ことをたいへん誇りに思うとともに、これまでのJAAGAの活動に感謝する」とのお言葉を頂いた。

記念撮影の後、懇談に移り、丸茂会長から以降のJAAGAの活動予定として、9月中旬のJAAGA訪米団の太平洋空軍及びワシントンDC訪問、9月20日(金)のJAAGA会員による横田基地研修について説明し、ラップ司令官からは横田基地研修の受入には万全を期すとのことに加え、AFA(Air Force Association:米空軍協会)主催のワシントンDCにおけるAir Space Cyber Conference(航空・宇宙・サイバー会議)などで再会できる機会があると思うとの話があった。また、AFAに並ぶ大きな組織としてATA(Airlift and Tanker Association:輸送機・空中給油機協会)もあり、年1回ダラス近辺でカンファレンスが開催されるので、そちらとの関係も持つと良いのではとの助言も頂いた。



ラップ司令官は、10月8日に予定されている指揮官交代式をもって退役される予定であり、退官後はテキサス州にお住まいになる予定とのことであった。JAAGA名誉会員は、今回新たにラップ中將が加わり24名となった。

(太田理事記)

# 「シルバー・フラッグ（多国間共同訓練）」への参加 “Silver Flag” in August 2024

シルバー・フラッグ訓練部隊指揮官 第9航空団 2等空佐 石黒 智之



A group photo of all participants from each country

JAAGA 会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のことと存じます。シルバー・フラッグ訓練（以下「本訓練」という。）への参加に当たり皆様から頂戴いたしましたご厚志に深く感謝申し上げます。

本訓練は、「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」の実現に資するために、米空軍が主催している多国間共同訓練



The explosion site is being restored by JASDF

の一つであり、空自を含む各国の空軍種が一堂に会し、施設分野の訓練を実施します。

令和6年度の本訓練は、空自が22名（うち、女性自衛官3名）、韓国空軍、オーストラリア

空軍、フィリピン空軍等の他国空軍6か国52名の計74名が参加（米空軍を除く。）しました。

本訓練では、運用基盤となる滑走路等が被害を受けた際に、各種施設活動をスムーズに行うための指揮所活動をはじめ、弾痕復旧、不発弾処理に係る訓練を実施したほか、可搬組立式テントの構築、非常用滑走路灯や電源、空調設備の復旧、簡易燃料タンクを一時的に保管するための防油堤の構築など、インフラの整備に係る訓練も実施しました。

訓練の合間には、積極的に他国空軍との交流を行い、相互理解、信頼関係の構築を図ることで、他国空軍の訓練内容や被害復旧に対する考え方などを知ることができ、各参加者からは、良い刺激になったとの声も聞くことができました。

今回で8回目の参加となる本訓練の主要成果は、次の4点です。①施設部隊の戦術技量の向上（展開先飛行場における運用基盤の造成や滑走路等被害復旧）②米空軍との相

互運用性の向上（米空軍保有新型器材の運用訓練）③参加国との相互理解の深化（共同訓練及び意見交換）④空自施設部隊のプレゼンス発揮

特に、空自の「知識の吸収力」、「施設重機の操作技術」、「自主的かつ積極的な行動力」などについては、米空軍のみならず、他国の参加者からも多くの賞賛の声をいただくとともに、本訓練期間中に活躍した優秀隊員として、3空団基地業務群施設隊の加川2曹が表彰され、空自施設部隊のプレゼンスを大いに発揮できたものと思います。

日米同盟の抑止力、対処力の一層の強化が求められる現状において、施設職域においても本訓練や日米施設部隊共同訓練等を通じ、引き続き、運用基盤の造成、被害復旧能力の向上、米空軍との相互運用性向上に尽力していくことが大切であると感じているところです。

各訓練参加者は、本訓練で得られた成果、教訓を活かし、それぞれの部隊において、日々の任務に邁進し、練成訓練に励み、部隊の精強化に努めてまいり所存です。末筆ではございますが、JAAGA 会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、お礼の挨拶とさせていただきます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



TSgt Kagawa (second from the right) was awarded as an outstanding soldier

## 「タラン・シャクティ 24（多国間共同演習）」参加者を激励 EX“Tarang Shakti 24” was held in August and September

9月3日（火）、横田基地航空総隊司令部応接室において、航空総隊副司令官影浦誠樹空将（幕僚長松崎勇樹空将補同席）を訪ね、インド空軍が主催する多国間戦闘機共同演習「タラン・シャクティ 24」に参加する部隊を激励し、演習の成功を祈念した。

丸茂会長は、これまでの米空軍主催であったレッドフラッグ・アラスカやコープ・ノース・グアム、オーストラリア空軍主催のピッチ・ブラックに加え、インド空軍主催の「タラン・シャクティ」に参加することで、インド太平洋地域における同志国との更なる連携強化が図られる意義深い一歩であると述べると、影浦副司令官からは、これまでの JAAGA からの支援に対する謝意が述べられるとともに、新たな枠組みとなる同訓練での成果もしっかりと積み上げていきたいとの心強い言葉を頂いた。

航空自衛隊の「タラン・シャクティ 24」への参加は初めてであり、同演習は、8月29日（木）～9月14日（土）の間、インド ラジャスターン州ジョードプル空軍基地及び同周辺空域において、インド空軍及び米軍を含めたその

他参加国の空軍との共同演習を通じ、部隊の戦術技量向上及び参加国との相互理解の促進を図ることを目的として実施された。航空自衛隊からは第7航空団（百里）の航空機 F-2 × 3 機及び人員約 110 名が参加する予定であったが、航空機は天候等の理由によりインドまで展開することができなかった。  
(太田理事記)



JAAGA President Marumo (third from the left) encouraged Gen Kageura, Vice Commander of the Air Defence Command (second from the left)

### 『タラン・シャクティ24』参加所見

第7航空団 副司令 1等空佐 大西 健介



航空自衛隊は、8月29日から9月14日の間、インド空軍の主催する多国間共同演習「タラン・シャクティ 24」に参加いたしました。この演習には、日本、アメリカ、ギリシャ、シンガポール、アラブ首長国連邦、オーストラリア及びスリランカが航空機を参加させたほか、多数の国々がオブザーバーを派遣していました。私は、訓練参加部隊指揮官として、インド国内ジョードプル空軍基地に輸送機等で渡航した約 110 名の指揮を執りました。F-2 戦闘機は、経由地のシンガポールまで展開したものの、インドへの展開は、天候不良や KC-767 空中給油・輸送機の器材不具合等により叶わず、当該演習が終了しました。主力である戦闘機の参加はできなかったものの、輸送機等で渡航した戦闘機操縦者は、各種ブリーフィングへ参加し運用に係る意見交換等を行いました。また、整備員等は、現地における戦闘機の整備補給等態勢を構築し、運用支援に係る知見を得ることができました。その他にも、シンポジウムでの意見交換に加え、文化交流を含む部隊間交流等、インド空軍が主催する各種イベントへ参加することによって、主催国

であるインドはもとより、各参加国との相互理解の促進を図ることができました。

米空軍は、A-10 と F-16 が本演習に参加しましたが、特に韓国オサン基地から A-10 で参加した第 25 飛行隊は、創隊初期にインド国内に駐留していた歴史があり、半世紀以上を経て今回初めてインドに戻ってきたことは歴史的な出来事だと話していました。

今回の参加を通じて私が感じたことは、インド空軍がインド・太平洋地域での空軍種間の交流を強く望んでおり、今回の演習もインド空軍の総力を挙げて取り組んでいたと思います。また、その中でも日本の航空自衛隊に対する期待は大きかったと感じました。このタラン・シャクティ演習は、隔年で継続されるだろうとのことですが、今後ともインド空軍とは多国間又は 2 国間の訓練等を通じて相互理解を高めていきたいと強く思いました。

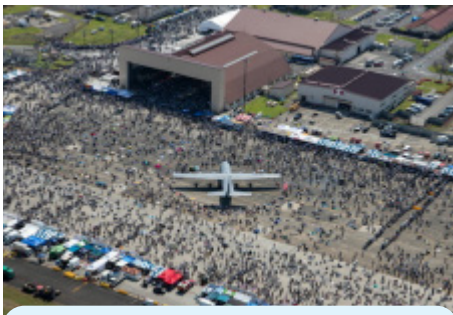
JAAGA の皆様には今回の演習参加にあたり多大なるご支援を賜り、誠に有難うございました。

# 横田基地日米友好祭 2024 開催

## Yokota Air Base opens door for The Friendship Festival 2024

5月18日(土)及び19日(日)の2日間、米空軍横田基地において「横田基地日米友好祭 2024」が開催された。地域社会とのパートナーシップを深めることを目的とした友好祭は今年で48回目を数え、期間中多くの人々で賑わった。

エプロン地区の航空機展示エリアでは、横田基地所属のC-130をはじめ各種輸送機他、F-35、V-22等、さらに今年は12年ぶりに公開されたF-22など



Friendship festival in Yokota AB  
© U.S. Air Force

多数の米軍機が展示された。加えて、F-2やC-2等の空自機も展示され、米空軍C-130からの陸自第1空挺団のパラシュート降下

など友好祭の盛り上げに一役買っていた。また、雨が心配される場面もあったが、日中は概ね天候にも恵まれ、航空機展示や展

示飛行の他、屋内ステージや格納庫ステージでの太平洋空軍音楽隊による音楽演奏や各種パフォーマンスなど多種多様なイベントが行われた。そして、19日



JAAGA members with Col Roddan

夜にはフィナーレを飾る花火が打ち上げられ来場者を魅了した。今年の友好祭来場者は昨年より約11万人多い、2日間で延べ30万2000人を数え、大変な賑わいの一大イベントであった。



Col Roddan made a speech at the Reception

友好祭期間中には周辺自治体、協力団体、官公署の長らが招待されての祝賀レセプションも開催された。18日

午後1時から始まった第374空輸航空団司令官主催のレセプションは、晴天のなか基地内のDVガーデンで開催され、航空自衛隊からは鈴木総隊司令官、柳総隊防衛部長、石井横田基地司令をはじめ近隣部隊長らが、JAAGAから

JAAGA members with Lt Gen Rupp

は前原副会長、上ノ谷企画理事及び

藤田、川口渉外理事、石川会員が参加した。昨年から本レセプションの会場となっているDVガーデンは航空機展示が行われている飛行場地区に隣接しており航空機を眺めながらのレセプションは、また一味違ったものであった。会の冒頭、主催者のラダン大佐(Col Andrew L. Roddan, Commander of Yokota AB)から「横田基地日米友好祭への参加及び日頃からの米軍への支援に対しての謝意とともに、友好祭を通じ基地の使命や文化を日本の方々に知っていただく機会としたい。」との挨拶があった。

翌19日、午後6時からは在日米軍司令官兼第5空軍司令官主催のレセプションが基地将校クラブで開催され、航空自衛隊からは内倉航空幕僚長、南雲統合幕僚副長はじめ多数の将官が出席し、JAAGAからも丸茂会長、前原副会長、武藤理事長及び村田、岩崎渉外理事が参加した。本レセプションは、昨年中止となったホリデーレセプションに代わる



Lt Gen Rupp delivers opening remarks

もので、多数の御夫人方も参加され、米軍バンドが奏でるバックミュージックの中、華やかな雰囲気のもと和やかに会は進行した。主催者であるラップ中将(Lt Gen Ricky N. Rupp Commander, USAFJ)は開会にあたり「米軍関係者を代表し、日本政府と自衛隊の日頃か





Guest Speech by Lt Gen Nagumo

らのパートナーシップや友情に感謝する。日米同盟は地域の平和と安全に対する脅威に歩調を合わせ進化しており、日本が安保3文書で示した反撃能力保有、宇宙作戦やサイバー能力の向上、共同指揮統制機能の強化等の取り組みは日本のコミットメントを確認するものである」と述べるとともにレセプション終了後開催予定の花火大会に触れ「夜空で花開く、美しい形と色を現す花火は友情と総合力の象徴であり、日米同盟が前進し続ける決意に思いを巡らせて欲しい」と語った。来賓を代表し統幕副長の南雲空将が挨拶を行い「日米両国は普遍的

価値と戦略的利益を共有しており、日米同盟はインド太平洋地域の平和と安定に必要な礎で米軍と自衛隊の堅固な絆はその中核となる。歴代司令官のリーダーシップと在日米軍の尽力に敬意を表するとともに、今後とも共に心と力を合わせ協力関係をさらに確たるものとし日米安全保障協力の新しい時代を切り拓いていきたい」と述べた。

会場内では、多くの談笑の輪が広がり日米の友好が深められた。会は友好祭のフィナーレを飾る花火大会の開始時刻に合わせてお開きとなり、多数の参加者が送



Chatting with JAAGA President Marumo

迎バスで花火会場へと向かった。

(上ノ谷理事記)

### 「空中給油」

長年の航空自衛隊の念願であった空中給油は、空自F-15Jと米空軍KC-135との数年の訓練を経て、2003年「コープサンダー」において、実戦給油として歩み出しました。その後航空自衛隊は、KC-767の導入やKC-130からUH-60Jへの空中給油へと繋がっていきませんが、今後は、「無人空中給油機」からの空中給油が展望されます。

絵と文：富岡OB



# 令和6年度 JAAGA 横田基地等研修

## JAAGA members' 2024 visit to Yokota AB on September 20

### 【全般】

快晴の9月20日（金）、令和6年度 JAAGA 横田基地等研修が実施され、正会員5名、個人賛助会員13名、法人賛助会員16名及び理事4名の計38名が参加した。参加者の約2/3は今回初参加、また約1/3が20~30歳代であり、特に初参加者を中心に「得難い経験ができた、とても良い学びの機会となった」等の意見が多く聞かれた。

日米ともに司令官等以下担当に至るまで万全な体制で対応して頂き、日米双方での濃密なブリーフィング、Q & Aセッション、航空機研修などの研修が円滑に行われ、参加者は横田基地及び日米による安全保障環境への貢献について理解を深めることのできた意義ある一日となった。

9月半ばを過ぎたとは思えない、最高気温がほぼ35℃となる猛暑日であったが、上着なしのクールビズでの参加や飲み物の携行について運営サイドから事前に周知されており、熱中症予防への配慮がなされていた。

### 【集合～結団式～横田基地へ】

朝9時半に集合場所である JR 拝島駅コンコースにて行われた結団式では、今瀬理事及び菊田理事からの全般説明に続き、笹尾団長（正会員）、多智副団長（個人賛助会員）、殿岡副団長（法人賛助会員）はじめ各参加者が紹介され、団長及び両副団長からの挨拶があった。

結団式を終え、研修団は航空自衛隊バスにて横田基地に移動を開始。横田基地第5ゲートに到着しMPによる入門チェックを経てゲートを通過したが、航空総隊司令部による事前調整のおかげで入門手続はスムーズであった。



Briefing by Maj Gen Yanagi

### 【航空総隊司令部】

航空総隊司令部庁舎に到着。航空総隊司令官鈴木康彦空将、副司令官影浦誠樹空将、幕僚長松崎勇樹空将補及び横田基地

マスコット・キャラクター「ハヤテ君」の出迎えを受け、参加者全員で写真撮影。その後会議室に移動し、防衛部長柳享範空将補による航空総隊の概況説明が行われた。我が国を取り巻く安全保障環境、航空総隊の過去・現在・将来について説明が行われ、参加者は改めて厳しい安全保障環境と航空総隊の任務遂行状況、活動状況、航空総隊の将来



Lt Gen Suzuki answers questions from JAAGA members

に向けた取り組みについての理解を深めることができた。

次に鈴木司令官によるQ&Aセッションが行われ、予定時間まで多くの参加者から次々と質問の手が挙がった。航空機運用、宇宙、反撃能力、サイバー攻撃、多国間演習等、幅広いトピックの質問が活発になされていた。

### 【JAAGA 主催昼食会】

航空総隊司令部研修の後、米空軍バスで横田基地オフィ



Luncheon at the Officers' Club

サーズ・クラブに移動し、航空総隊司令部、第5空軍司令部及び第374空輸航空団からの参加者計16名を迎えてJAAGA主催の昼食会が行われた。始めに笹尾団長からの挨拶

があり、横田基地側からは航空総隊司令官鈴木康彦空将、そして第5空軍副司令官シュッテ准将（昇任予定）（Brig Gen(S) John M. Schutte, 5AF Deputy Commander）からスピーチをいただいた。続いて菊田理事の乾杯をもってランチタイムが始まり、それぞれのテーブルでは日本語と英語での和やかな会話と美味しい食事を楽しんでいた。ランチタイムは殿岡副団長のスピーチで締めくくられ、米空軍バス乗車前にオフィサーズ・



Group photo in front of the Officers' Club after lunch



Transportation by bus in the base



Gift exchange, Brig Gen(S) Schutte and Mr Sasao, JAAGA tour leader



JAAGA tour members listen to the 5th Air Force mission brief

クラブ前にて全員で記念撮影。

【第5空軍司令部へ】

第5空軍司令部庁舎に移動し、ブリーフィング会場にて暫し昼食後の休憩時間。この間に笹尾団長、多智、殿岡両副団長はシュッテ副司令官（ハタノ副司令官付特別補佐官陪席）を表敬し、菊田、菅原両理事が同席した。副司令官自らそれぞれのカップにコーヒーを注がれるなどフレンドリーな雰囲気の中、和やかに約15分間の懇談が行われた。

【任務概要説明】

副司令官からの挨拶に続き、サム・バス副参謀長（Mr Sam Bass, 5AF/Deputy CS）による米第5空軍のミッションブリーフが行われた（通訳はハタノ特別補佐官）。ブリーフィング会場には第5空軍司令部の各部長も同席。ブリーフィングは第5空軍の歴史、任務、ビジョン、指揮関係、同盟国との協力等、幅広い内容であった。日本のJJOC（JASDF Joint Operations Command：統合作戦司令部）創設に伴い、第5空軍も近い将来変革していく旨の説明もあった。

質疑応答では、複数の研修参加者から活発な質問があり、

バス副参謀長のほか、同席した各部長からもそれぞれの所掌事項について誠実な回答があった。

【航空機見学】

米空軍バスで飛行場エプロン地区に向かい、第374輸



Backstage tour of C-130J Super Hercules under the clear sky



Commemorative photo with C-130J crew members on the backside cargo door

送航空団のC-130Jスーパー・ハーキュリーズに到着。搭乗員から機体の全般説明を受けた後、貨物室や操縦室などを自由に見学することができた。丁度日中最高気温の時間帯であり、機内見学を終えた研修者は主翼及び尾翼の日陰にて暑さを凌いでいた。続いて格納庫地区に移動し、UH-1Nヘリコプター及びC-12J輸送機を見学した。当該

機種種の元パイロットで現在は飛行管理等に携わっているシビリアン・スタッフから丁寧な説明及び質疑応答が行われた。

基地内での研修全プログラムを終えた研修団は、司令部庁舎前にて米空軍バスから航空自衛隊バスに乗り換え、横田基地を出門。時間の関係から、解団式は拜島駅に向かう車中で行われ、笹尾団長から貴重かつ大変有意義な研修であったこと、またJAAGAへの謝意が表され、拜島駅到着をもって研修は終了となった。

本研修にあたりご尽力いただいた航空総隊司令部の原様、羽鳥様、米第5空軍のハタノ様、イエーツ大尉はじめ、ご支援くださった日米関係各位に心より感謝申し上げます。

研修参加者所感

株式会社フジワラ 代表取締役社長 松島 雄一郎 さん

昨年12月に入会させていただき、2月の嘉手納・沖縄研修に続き、今回2回目の研修として横田基地研修の機会をいただきました。

弊社は戦時中から硝子を曲げることによって零式戦闘機のキャノピーを製造し、戦後は三菱レイヨン（現三菱ケミカル）の加工外注としてアクリルを加工し、F86のライセンス生産以降、多くの防衛省機の風防、キャノピー、窓の

生産に携わらせていただいております。2002年には三菱レイヨンに代わり、弊社が輸入材料を使い契約者となっております。また、その後、旭硝子（現AGC）の移管も受け、国内唯一の風防メーカーとして事業を行っております。

風防、キャノピーはパイロットの命を守る重要な部品であり、社員一同、常に品質を意識したモノづくりを行っております。実際に使用されるパイロットのご意見を聞くこ

とができる OB の方が多く在籍される JAAGA に参加させていただけることに大変感謝しております。

航空総隊司令部では、中国、北朝鮮、ロシアの脅威だけでなく、昨今中国とロシアが共同で日本への活動を活発化させている状況についてご説明いただきました。そしてその中で日米韓の共同訓練やイタリア、スペイン、ドイツとの協力関係の強化や宇宙についての活動と多岐にわたり対応する日本を守るための取組について学ばせていただきました。

オフィサーズ・クラブでの昼食会では、航空自衛隊及び米軍幹部の方々と色々なお話をし、楽しい昼食会となりました。また、この時間に参加者同士のコミュニケーションもでき、個人会員の方々の JAAGA への熱い思いや防衛産

業の関わっている方々との情報交換もすることもでき、その意味でも大変有意義な時間となりました。

午後の米軍での研修では、コロナ禍時に後退してしまったコミュニケーションの修復の必要性や情報共有の重要性についてお話がありました。そのために日米合同演習を行い、問題点をあぶりだし、改善していているとの説明があり、日米の強力な関係の重要性とその双方の努力を強く認識した研修となりました。

最後にこのような機会を頂きました、JAAGA の皆様、航空自衛隊、米軍の皆様にご心より感謝申し上げます。



### 研修参加者所感

東芝インフラシステムズ（株）電波システム事業部 防衛営業第四部  
誘導第二担当 高橋 満里奈 さん

今回私は初めて JAAGA の研修に参加させていただきました。私事になりますが、私は今年の 4 月に入社し、防衛事業に関わって半年になります。そのような時期に本研修に参加させていただき、貴重な経験をさせていただきましたこと、大変ありがたく思います。当日は夏の影が色濃く残る、9 月とは思えぬ猛暑日でしたが、午前は座学での研修、午後は見学と、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

航空総隊司令部の方からの概要説明では、我が国を取り巻く安全保障の環境や航空総隊の歴史、現状、そして未来についてご教示いただき、まだ知識不足な私にとっては特に学びの多い時間でした。微力ながらも日本の防衛に携わる人間として、なぜこの事業が必要なのか、今後どういったものが求められるのか、常に世界情勢を見て考え、問い続けることが重要だと感じました。

第 5 空軍の方々からは、任務や部隊紹介、日米連携についてご教示いただきました。中でも印象に残っているのは、米空軍内での情報共有はもちろん、日本の航空自衛隊といかに正確に、安全に情報を共有できるかが重要だという言葉です。防衛における日米の協力

関係は、実務レベルまで浸透しており、日本の安全は日米の協力によって成り立っている

ことを改めて実感しました。

午後の米軍機見学の研修では、C-130、UH-1、C-12 を見学させていただきました。いずれも写真では分からない、その大きさに圧倒されました。C-130 は中に入り、操縦席に座るという特別な体験をさせていただきました。実際に中に入ると暑さに圧倒され、「エアコンはついているのか、中は快適なのか」など器材の使用に係る疑問についてパイロットの方に質問させていただきました。見学の際は米軍の方々とお話させていただき折がりましたが、私の拙い英語レベルにも関わらず丁寧に会話をさせていただき、実務的なことをご教示いただけたことに感銘を受けました。

本研修を受け、日本の防衛の一端を担えることへの



誇りと責任を改めて感じました。今回の研修で自分の業務がどうつながっているのか、どのような意味があるのかといった点がこの素晴らしい体験をもってクリアになり、今後より高いレベルで業務に従事できると

思います。

お力添えをいただきました関係者の皆様には、このような学び多き濃密な機会を設けていただいたこと、改めて感謝申し上げます

研修参加者所感 三菱電機株式会社 防衛システム事業部航空防衛システム営業部  
航空防衛第二課長 佐藤 竜太郎 さん

私は4月より、戦闘機向けのレーダ、ミサイル等の営業を担当しており、空自側の横田基地に伺うことは度々あるのですが、米空軍側は初めてのため、とても貴重な体験をさせていただきました。

午前中は、柳防衛部長による航空総隊の概要説明、鈴木総隊司令官によるQ&Aセッションと豪華な内容でした。特に印象に残っているのは、総隊司令官の“明るく、厳しく、遅しく”というモットーであり、精強さを誇る実力組織であるからこそ、明るさは大事な要素であると説明されており、当社のOBの方々も明るい理由が分かりました。

午後は、第5空軍司令部庁舎を訪問することになりましたが、総隊司令部の真裏にありながら、これまでは訪問機会がない場所でした。第5空軍研修では、これまでの同軍の変遷、陣容、活動等を説明頂き、普段中々接することのない、第5空軍に対する理解が深まりました。組織規模は思ったより大きくないものの、第5空軍所属の方以外にも、退役軍人、日本人等の幅広い方々が同軍の活動を支えていると感じました。その後、C-130やUH-1も見学させていただきました。

UH-1は退役されたパイロットの方が運用に携わっているとのことで、米空軍では民活が進んでいるなど

感じました。

最後に余談となりますが、第5空軍研修中に名刺入れを落としてしまいました。連休明けにJAGGA事務局に連絡して捜索を依頼したとこと、JAAGA→総隊→第5空軍へとコンタクトして頂き、翌日には米空軍のバス内で発見頂くことが出来ました。日米両空軍、JAAGAの連携の強さ、速さを実感させて頂くと共に、関係者の方々にはこの場を借りて改めて御礼申し上げます。



スイカ  
作：宇山 OB

# 米空軍士官学校留学生支援「日光研修」

## JAAGA supports USAF Cadets "Nikkou Tour"

### 1 はじめに

JAAGAの年度事業の一つである防大留学米空軍士官候補生支援事業を昨年に引き続き担当した。今年度から深澤理事に新たに加わっていただくとともに引き続き肥田木多恵子会員にもご支援いただくこととなった。この3名が防衛大学から1セメスター留学生のホストファミリーとしての委嘱を受け、9月3日に防衛大学で行われた留学生との顔合わせに参加するところから本事業は始まった。

昨年に引き続き4名の士官候補生(4名とも4学年、今年は女性の留学生は無し)が派遣されてきており、日本との関係を重視する施策が継続していることを確認できた。願わくばこれが定着して欲しいものである。4名の候補生たちは、始まったばかりの留生活に不安を抱きつつも、様々な出会いや経験への期待に胸を膨らませており、その様子を微笑ましく感じた。

互いの自己紹介を済ませた後、当日開催されていた水泳大会に他の留学生(米陸・海軍、仏空軍からの留学生)と共に特別チームを組んで参加し、大会を盛り上げていた。一度も背泳ぎで泳いだことの無いと言っていたタッカー(Tucker Terlizzi)君がメドレー・リレーの背泳ぎ担当で出場しているのには驚いた。コースロープに何度も絡まりながらも泳ぎ終えた時は、心からほっとした。

彼らの希望と我々ホスト・ファミリーとの都合がなかなか合わなかったこともあり、宇都宮研修前に留学生と交流する機会は残念ながら殆どなかった。



Meet with Cadets in their room of NDA

しかし、11月10日(日)の防大開校祭に合わせて小原台を訪ねることができた。友人を案内中だったケーレン(Kalen Alejandro)君を除き、タッカー君、ジオ(Galeoto Giovanni)君、キーラン(Kieran Moise)君と学生舎の部屋の中で1時間以上にわたって近況やこれまでの留生活の感想等について話を聞く事ができた。

### 2 日光研修

#### (1) 第1日目(11/30(土));日光東照宮等研修

研修前日(11/29)の昼ごろになってタッカー君からLINEが入った。風邪を引いて熱と咳がひどくなり、週末は隔離部屋で安静にするよう医務室で診断されたとのことであった。堀川様には、ホテルのキャンセルや昼食、懇親会の人数の変更などお手数をお掛けすることとなったが、「くれぐれもお大事に」「早く回復するよう祈ってます」との暖かい言葉を頂いた。長年、本事業とともに他のボランティア活動も経験されており、懐の深さと寛容さに敬服した。戦闘機操縦者を希望しているというタッカー君に対しては、「自己管理、健康管理できない操縦者はいないよ」というやや厳しめのLINEを返して自省を促した。

昨年同様に留学生と同行理事は東京駅丸の内口の外で待ち合わせた。今年の留学生は特に迷う様子もなく時間通りに姿を見せたが、彼らの服装には驚かされた。2名は半そでのシャツ1枚のみの薄着で、その内の1名は上に羽織る服すら持参していなかった。事前に注意事



Sitting side by side

項を伝えておくべきだったとしても後の祭りであったが、週末の天候は良好との予報に望みを託すこととなった。

東京駅から宇都宮駅までの新幹線では同行理事を含めて会話できるよう7名一纏まりの指定席を取っていたが、直前で1名抜けたことによって、昨年のようにシートを回転させ、向かい合った状態で話をすることはなく、静かな研

修の始まりとなった。後で聞くとキーラン君は通常の起床時刻より前に起きて防大を出発しなければならないことから、時間が気になって夜中に何度も目を覚ましたので睡眠不足とのことで、直ぐに深い眠りに落ちていた。

宇都宮駅では、堀川様や現地ですべての星の杜高校の小口先生と4名の高校2年生(共学になって最初の星の杜高校の生徒)が日米の国旗とエスコートする留学生の名前を書いた手書きのボードで出迎えてくれた。ジオ君が新幹線の中に切符を置き忘れてしまい、改札口を出られず深澤理事と駅員さんに対応していたため、簡単な挨拶のみでバスに向かうこととなった。せっかくなの出迎えの様子を写真に収めることが出来ず残念であった。

バスに乗車後、エスコートの学生と隣り合わせて座り、ゆっくり自己紹介をしながら最初の目的地である霧降高原の「山のレストラン」に向かった。「山のレストラン」は霧降高原の大自然に囲まれた絶好のロケーションに建つレストランであり、西洋風の石造りの瀟洒な建物はとても上品な雰囲気を見せていた。遠くに日光連山を望む抜群の眺望を楽しみつつ、栃木県産の食材のみで調理されるお洒落なランチを堪能しながら会話が弾んでいた。留学生とエスコートの高校生達は、紅葉も一部残る景色とインスタ映える料理の写メを撮りながらランチを堪能し、お互いの距離も急速に縮まったように感じられた。

その後、バスで日光東照宮へ向かったが、バスの中の会話は昼食時以上に盛り上がっていた。日光東照宮には数多くの外国人観光客が訪れており、入場券売り場は大混雑であった。堀川様のご配慮で事前



Cadets and escorting student in Nikko-Toshogu

予約をして頂いていたことから、列に並ぶことなくスムーズに入場することが出来た。

エスコートしてくれる高校生達は、日光東照宮の見どころを予め調べて英語で説明できるよう準備してくれていたが、「三猿」や「眠り猫」等の前で単語が出て来ず悪戦苦闘する様子もあった。留学生が日本語で助け舟を出す等、しっかりとコミュニケーションを取っていた。

エスコートする生徒の英語の勉強の場でもあるので、留学生



Good smiles in front of Yamano Hotel

には極力英語で会話するように事前をお願いしていたが、上手く伝えられない時には候補生は日本語で、学生は英語と日本語を混ぜて会話したり、時にはスマホで意思疎通したりと、コミュニケーション能力を高める良い機会となっていた。

東照宮の研修を終えホテルに向かうバスの中でも、学生と候補生は通路を挟んで隣に座り会話が更に弾んでいた。特に今年の学生は4名共に英語の素養が高いことに加えて、カナダやフランス等への留学を経験しており、全く臆することなく自然体で留学生に接して会話している様子には驚かされた。ホテルに到着すると本事業の礎を作り長年ご支援いただいている高柳様の奥様（堀川様のお母さま）がご挨拶のために我々を待っておられた。生徒さんの労をねぎらうとともにプログラム参加のお礼としてお菓子をプレゼントして頂いた。学生はそこで一旦帰宅し、留学生とホストファミリーは堀川様主催の夕食会に参加した。夕食会場の女性店長さんは堀川様とお知り合いとのことで、会の趣旨を理解され、留学生に対して今後の日米関係の懸け橋となることを期待する旨のご挨拶を頂いた。英語は得意ではないと言いつつ事前に自作されたメモを見ながらの英語での挨拶であり、暖かいおもてなしの気持ちが伝わってきて、とても感動した。



Dinner with Mrs. Takayanagi and Mr. & Mrs. Horikawa

星の杜高校の小野田校長にも参加頂き、エスコートする生徒にとってこの日光研修支援プログラムがコミュニケーション能力の向上や異文化交流の極めて貴重な機会であることから、星の杜高校としても継続していきたいというお話を頂いた。本プログラムに関わってこられた関係者の方々の努力の賜物であり、JAAGA にとっても貴重なプログラムとなり、更なる充実・発展に努める旨をお伝えした。また、星の杜高校・中学の生徒さんを対象に職場見学として空自基地等にご案内することも進めていくことで同意いただいた。

## (2) 第二日目 (12/1(日)); 大谷石資料館、ろまんちっく村、若山農場若竹の杜の研修

爽やかな冬晴れ下、二日目の日程が始まった。当日の昼から日本語の能力検定試験を受験するジオ君を宇都宮駅の改札口まで皆で見送りに行った。試験での健闘を祈念して声援を送りつつ見送ったが、彼が間違ったホームに向いそうだったので、慌てて追いかける一幕もあった。

その後、再びバスに乗り、大谷石の採掘場であった大谷資料館まで移動し、地下の採掘場跡などを徒歩で見学した。大谷石は宇都宮市北西部の大谷町付近一帯で採掘される軽石凝灰岩（火山灰が堆積してきた岩石）である。加工がしやすく軽くて丈夫であることから外壁や土蔵の建材として利用されてきた。

実際、バスで通り過ぎる道路沿いの土塀や家の外壁に大谷石が使わ

れている様子を確認することができた。操業を終えた採石場跡に残る広大な地下空洞を観光・学習施設としているのが大谷資料館である。大谷石を採掘して出来た地下数十メートルの深さに広がる巨大な空間は、ワインや日本酒の貯蔵・熟成に使われたり、映画やCMの撮影に使われたり、更には生け花などの展示会などにも使用される等、多様な用途で活用されている。先の大戦時には中島飛行機が製造した「疾風」のエンジン部品の倉庫として使用されていた史実を示す写真も展示されており、非常に興味深かった。留学生と学生は、幻想的な照明でライトアップされた地下の広大な空間とエコーの掛かった会話を楽しんでた。

大谷資料館の側のギフト・ショップで土産物などを購入した後、昼食会場である道の駅「うつのみやろまんちっく村」へ移動した。フードコートで各自思い思いの昼食をピックアップしての食事となった。ちょうど広場で行われていた大道芸を見ながら、彼らの会話も弾み笑顔いっぱいであった。

その後、若山牧場へ移動し、竹の名所である若竹の杜を散策した。若山牧場は、栃木県宇都宮市北部にある100年以上の歴史がある農場で24haにも及ぶ圃場において竹やタケノコ、栗、ブリーベリーなどを栽培している。日本最大級の面積を誇る若竹の杜には、孟宗竹や真竹、破竹など、さまざまな種類の竹が植栽されており、ガイドさんから竹にまつわる様々な興味深いお話を聞くことが出来た。

美しく手入れされた竹林は、映画『るろうに剣心 京都大火編 / 伝説の最期編』や『キングダム』、ドラマ『パリピ孔明』など、数多くの映画やドラマのロケ地となっている。

若竹の杜では、竹の容器で点てられた日本茶を楽しむとともに、竹林の中に設置されていた竹のみで組み上げられた巨大なブランコやハンモックなどを楽しんだ。

若山牧場の若竹の杜を十分に堪能した後、バスで宇都宮駅に向かい2日間の日程を終えた。タッカー君が風邪で不参加となり、2日目にはジオ君が試験の為に抜けたため、留学生2名と学生4名の形となってしまった。しかし、留学生を挟んで両脇に学生が座る等、バスの中でも若竹の杜の散策時も同級生のように違和感なくワイワイと楽しんでいる様子を確認出来て嬉しく思った。

宇都宮駅でエスコート学生とお別れとなったが、初日の出迎え時のごちなささは完全に消え、別れを惜しみつつも最後まで笑顔が溢れていた。本プログラムに参加した留学生は、事あるごとに感謝の言葉を口にしていたので、お世話になった堀川様、高柳様に直接お伝えするように伝えたと、帰路に着く前の短い時間ではあったが感謝の気持ちを伝えていたようである。

帰りの新幹線の中で深い眠りにつきながらエスコート学生への感謝



In front of water fall near the Oya Museum



Group photo at bottom of Kanaya Museum



← Guide explaining type of Bamboo  
Tasting Japanese tea and sweet →

の気持ちと本プログラムの意義を噛みしめてくれていたものと考え  
る。東京駅で横須賀に向かう留学生たちを見送って本プログラムを終  
了した。

3 おわりに

日光研修に関わる企画・調整はほぼ全て堀川様が中心となり星の杜  
高校関係者と共に準備されたもの  
である。留学生や生徒さん達にとっ  
て楽しく意義深い研修となるよう  
細部まで配慮されており、堀川様  
並びに星の杜高校の関係者の方々  
に改めて感謝申し上げたい。

また、エスコートしてくれた 4  
名の学生にも深く感謝したい。彼  
彼女らの中には中学部の頃からこの  
プログラムに参加したいという希  
望を持っていた生徒や、フランス  
留学から帰国後直ぐに参加してく



Full of smiles to see off  
cadets

れた生徒もあり、彼女たちの異文化交流やコミュニケーション能力向  
上に対する意欲と意識の高さには本当に感心させられる。同時にその  
意欲を最大限実現できる環境を作り上げている星の杜高校・中学の学  
校運営にも敬意を表したい。

バスの移動間に準備してきたお茶やお菓子を配ったり、留学生に対  
する細やかな心配りやおもてなしの気持ちを行動に移せる生徒さん達  
の姿に将来の明るい希望を見いだしたような気がする。

今年は様々な理由で留学生の数とエスコートする学生数が不釣り  
合いとなり、昨年に比べると色々難しい面があった。来年度は同行  
理事の役割分担等も検討した上で、プログラムが更によくするよう準  
備に万全を期したい。留学生は口を揃えて任官後、必ず日本に戻って  
きて勤務したいと述べており、日米同盟の礎となる人的ネットワーク  
を強化する草の根活動となっていること実感する。星の杜高校にとっ  
ても貴重な英語学習や異文化交  
流の学びの場として定着しつづ  
あり、関係者にとって正に「Win-  
Win」のプログラムとなっている  
本プログラムに携えることが出来  
ることを大変光栄に思う。改め  
て高柳様、堀川様、星の杜高校  
の関係者の皆様、JAAGA 深澤理  
事、肥田木会員に深く感謝申し  
上げたい。

(荒木淳理事記)



In front of Nikko Toshogu

米空軍コーナー  
From 5th Air Force

Japanese Defense Minister visits Yokota

<https://www.yokota.af.mil/News/Yokota-News/Article-Display/Article/3959013/japanese-defense-minister-visits-yokota/>

中谷元防衛大臣が 2024 年 11 月 1 日横田基地を訪  
問し、在日米軍司令官兼第 5 空軍司令官スティーブン・  
ジョスト中将 (Lt Gen Stephen Jost) と懇談した。

横田基地訪問間、中谷大臣は、二国間情報分析セン  
ター訪問までの時間に、在日米空軍の主要な幹部と会  
うことができました。二国間情報分析センターは日米同盟  
を支援するため情報共有を図るため、2022 年に設立  
された。





## CSAF, CMSAF communicate readiness, reoptimization during visit at Yokota

<https://www.yokota.af.mil/News/Yokota-News/Article-Display/Article/3937676/csaf-cmsaf-communicate-readiness-reoptimization-during-visit-at-yokota/>

米空軍参謀長デイビッド・オールビン大將 (Air Force Chief of Staff, Gen David Allvin) と妻 ジナ 夫人 (Gina Allvin)、そしてデイビッド・フロシ米空軍最先任上級曹長 (Chief Master Sgt of the Air Force David Flosi) が 10 月 16 日、横田基地を訪れた。

「チーム横田は、自衛隊と一丸となって日本の防衛と、自由で開かれたインド太平洋の維持を担っている。横田基地は、重要な空輸拠点として機能し、脅威を抑止する即応性のある強靱な戦力を提供している」と大將は語った。

オールビン大將とフロシ最先任上級曹長は、横田基地を訪問中に第 374 空輸航空団のリーダーと面会し、全体集会を開き、優秀な兵士を表彰し、基地内の施設を視察した。

今回の訪問は、太平洋空軍の管轄地域を一週間かけて訪問するツアーの一環で、これまでにハワイ州のパールハーバー・ヒッカム統合基地やグアムのアンダーセン空軍基地、また東京で開催された空軍フォーラム (AFFJ: 空軍参謀長招聘行事) に出席した。

基地の任務説明と第 374 空輸航空団司令官リチャード・マックエルハニー大佐 (Col Richard McElhane, 374th Airlift Wing commander) と最先任上級曹長ケネス・ハウク最上級曹長 (CMSgt Kenneth Hauck, 374th Airlift Wing command chief) との面談の後、空軍参謀長と空軍最先任上級曹長は横田カミサリー、戦時物資保管施設、腐食防止格納庫、航空管制塔、航空団の作戦センターなどを視察した。

各視察部署で、リーダーたちは兵士と直接対話し、直面している課題やそれらをどう克服しているか、またパートナーシップの重要性について意見を交換した。

マックエルハニー大佐は「横田基地を上級幹部に紹介できることを誇りに思う。横田基地は住みよく働きやすい場所であるだけでなく、空軍、統合軍、パートナー国や同盟国に独自の投射能力を提供する重要な基地でもある。この訪問は、インド太平洋地域における主要な物流拠点としての必要性をアピールする絶好の機会となった」と話す。

オールビン大將とフロシ最先任上級曹長は、チーム横田

を対象に全体集会を開き、最新の情報を共有し、空兵からの質問に答えた。

フロシ最先任上級曹長は、「軍人として従事することは名誉であり、一度しか経験できないものだ」「これからも国、空軍、そして諸君に貢献し続けることが、私の原動力だ」と述べた。



最後に、オールビン大將とフロシ最先任上級曹長は UH-1 ヒューイに乗り、第 459 空輸中隊と第 374 医療群の 24 時間体制で行われる模擬医療搬送に参加し、患者を都内の高度医療施設に搬送する訓練を視察した。

その間、ジナ夫人は、基地内の支援施設を訪問し、食堂、保育施設、住宅、青少年のためのティーンセンター、フィットネスセンター、医療施設、学校、そして軍人・家族支援センターを見学し、横田基地のコミュニティの生活の質の向上を目指す取り組みについて説明を受けた。



横田基地は、西太平洋地域における主要なロジスティクスの拠点であり、人員や物資、装備品を地域内外に空輸する責任を負っている。基地とその 58 のパートナー部隊は、一体となって規律と即応性を持ちロジスティクスを同期化している。

「ここで働く兵士とリーダーシップは、積極的な姿勢で取り組んでおり、国に誇りをもたらしている」「横田基地は素晴らしい戦力を携え、同盟国と共にインド太平洋地域で達成しようとする全てにおいて不可欠な存在だ」とオールビン大將は述べた。



# 在日米軍司令官交代

## USAF Japan and 5th AF Change of Command ceremony in Yokota AB

10月8日(火)、米軍横田基地において、米インド太平洋軍司令官サミュエル・パパロ海軍大将 (Admiral Samuel Paparo) 及び米太平洋空軍副司令官ローラ・レンダーマン空軍中将 (Lt Gen Laura L. Lenderman) による執行の下、在日米軍兼第5空軍司令官交代「Change of Command」式典が挙行された。

同式典ではまずパパロ海軍大将が「日米同盟はこの地域



US Navy Adm Samuel Paparo presents the guidon to Lt Gen Stephen Jost during a change of command ceremony (Photo from USAFJ HP)

において最も強固で成功した同盟関係である。(わが国の統合軍司令部創設に関して) 在日米軍の発足以来、最も重

要な変化だ。日米同盟の軍事協力とインド太平洋地域において、70年間で最も強力な進歩だ」とスピーチした後、離任するリック・ラップ中将 (Lt Gen Ricky N. Rupp) の功労と日本への貢献を称え、パパロ海軍大将からラップ中将へ国防殊勲賞が贈られた。その後、ラップ中将から、在日米軍司令官旗がパパロ海軍大将に、第5空軍司令官旗がレンダーマン中将にそれぞれ返納され、続いて両司令官から新司令官ステファン・ジョスト中将 (Lt Gen Stephen F. Jost) に2つの指揮官旗が授与されて、在日米軍司令官及び第5空軍司令官の指揮権移譲は、厳粛裏に終了した。

離任するラップ中将はスピーチにおいて、参列者への感謝の意に続いて、時おり万感の思いに浸る場面もある中、「我々は前例のない課題に直面したが、相互尊重、同じ価値観、インド太平洋地域の安全保障へのコミットメントの上に築かれたパートナーシップを育むことで、その課題に正面から立ち向かうことができた。この同盟の将来と、私たちが守るべきこの地域に、全幅の信頼を寄せて、この地を去る。」と力強く締めくくった。

続いて、新司令官ジョスト中将は、日本語での挨拶から始まり参列者への感謝のあと、「長年にわたる日米同盟、すなわち地域の平和、安全、繁栄の礎石であると私が確信しているこの同盟を更に強化すること以外に、何の目的もなく、皆さまとともに成果を追求していく。これから始まる仕事上の絆、親密な友情、そして楽しい思い出作りを心

から楽しみにしている。」と述べた。

式典には、JAAGA から丸茂会長、荒木副会長、井筒副会長、武藤理事長らが参加しており、式典終了後のレセプションにおいて、丸茂会長、井筒副会長は、新司令官ジョスト中将とも和やかな談笑の中で JAAGA に対する協力と理解を申し入れるとともに今後の司令官の活躍を祈念するなど、エールを送った。

ラップ中将は、米軍嘉手納基地にある第18航空団副司令官のほか、空軍ワシントン地区隊司令官兼第320遠征航空団司令官などを歴任している。C-130、C-17など輸送機を中心に5,000時間以上の飛行経験を有し、「砂漠の盾作戦」、「イラクの自由作戦及び不朽の自由作戦」での戦闘飛行を行った最上級操縦士である。日本勤務が初めてではないラップ中将は、2021年8月27日から在日米軍と第5空軍を指揮し、日米同盟の最前線に立ち、各種演習の実施や日本政府との緊密な連携を通じて地域の安全保障の強化に努めながら、約62,000人の在日米軍の軍人・軍属の活動を監督した。

ラップ中将は、同日付で退役となりテキサス州エルパソにて、悠々自適に余生を楽しむと伺っている。今後は、JAAGA 名誉会員として日米の懸け橋として大きな役割を担っていただけるものと確信するとともに、益々のご活躍、ご健勝を祈念するものである。

新司令官ジョスト中将は、第20戦闘航空団司令官 (サウスカロライナ州ショー空軍基地) を歴任するなど、指揮官としての

経験はもちろん、国防省統合参謀本部統合戦略計画 (J-5) 副部長として勤務され、米軍三沢基地の第35戦闘航空団参



President Marumo and Vice President Izutsu chat with Commander Lt. Gen Stephen Jost and his wife.

謀長など日本での経験も有する。F-16C/D、F-35Aなど戦闘機を中心に2,700時間以上の飛行経験を有し、「イラクの自由作戦」、「サザン・ウォッチ作戦」での戦闘飛行を行った最上級操縦士である。韓国やわが国での経験豊かなアジア情勢に精通した司令官のご活躍と JAAGA へのご高配に対して大いに期待したいものである。 (川波理事記)

# 米軍基地スペシャルオリンピクス開催 “Special Olympics 2024”

## 米軍三沢基地 Misawa AB

令和6年10月5日10時から日本人アスリート（140名）を招待して、米軍三沢基地格納庫に於いて第35戦闘航空団司令官デイヴィッドソン大佐（Col Paul T. Davidson）主催によるスペシャルオリンピクスが開催された。

アスリートのほか家族、施設担当者、ボランティアスタッフなど約400名も参加し、選手への応援や支援を行った。

開会式に先立ち来賓ルームに於いて、JAAGAへのデイヴィッドソン司令官からの感謝状贈呈式及び来賓者からの寄付及びプレゼント等の贈呈が行われた。

開会式は、国旗の入場、日



The Commander presents a letter of appreciation to JAAGA

米国家の独唱、司令官の開会宣言が行われた後、サッカーやフェイスペイントなどの競技やアトラクションが行われ、アスリート達は、楽しそうに元気溘刺と



A heated soccer match

閉会式では、司令官から満面の笑顔のアスリート達にメダルが授与され、会場は爽やかな雰囲気に包まれた。

なお、同時帯に北部航空方面隊司令官主催の「青森県陸・海・空自衛隊殉職隊員追悼式」が執り行われ、池添支部長は三沢市自衛隊家族会会長として追悼式に参加したため、スペシャルオリンピクスには、支部長代理として山本事務局長が参加した。三沢基地自衛隊関係者からは、第3航空団副司令竹岡1佐及び第3航空団准曹士先任檜崎准尉の2名が参加した。（池添三沢支部長記）

## 米軍横田基地 Yokota AB

令和6年11月9日（土）、米空軍横田基地において第45回関東地区スペシャルオリンピクス（以下「KPSO」）が開催された。開会式において、基地司令の代理として第374空輸航空団の副司令官ブレット・コ克蘭（Col. Brett Cochran）大佐から、参加



Athletes and volunteers marching in

者への歓迎の意とスペシャルオリンピクスがこれまでに辿った経緯や意義等について語られ、最後に参加アスリートへの応援の言葉が述べられて、オリンピックが開始となった。KPSOは好天の下、参加アスリートの入場に引き続き、選手宣誓、聖火台への点灯式が実施され、各種競技が開始された。競技は、徒競走、バスケットボール、フライングディスク、立幅飛び、ソフトボール投げ、サッカーシュート、ボーリング、水泳など

多岐に渡っており、各アスリートはそれぞれ自身の最大限の力を発揮すべく全力で各種目に挑戦していた。参加したアスリートは95名、この運営には大会ボランティアとして米軍及び自衛隊の空曹士が当たっており、知的障害を持つ参加アスリートの挑戦を支えていた。

コロナ禍を終え、昨年度から通常規模となったKPSOに際し、自衛隊准曹会から500名を超えるボランティアが、統一されたT-シャツを着て一体感を持って臨む姿はとても清々しいものだった。JAAGAからは川口、藤田の渉外理事2名が参加し、ボランティアとともにアスリートの応援に当たった。初秋の好天下で開催されたKPSOは、カー杯競ったアスリートと運営に当たったボランティアの歓声が日暮れ近くまで会場で響き渡っていた。



Athletes mourning the podium

（川口理事記）

# 航空自衛隊宇宙作戦群紹介コーナー

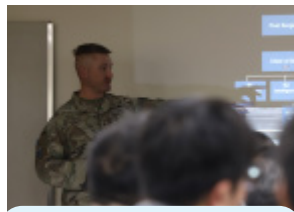
## Introduction of Space Operation Group

### 今後の展望と課題

航空自衛隊宇宙作戦群本部 2等空尉 原田 涼太郎

皆様はじめまして、宇宙作戦群所属の原田2尉と申します。この時期になると、幹部候補生学校を卒業し宇宙作戦隊（当時）に配属された3年前のことを思い出します。配属当時の宇宙作戦隊は部隊新編から1年少々と日も浅く、現在取り壊し中の旧航空総隊司令部庁舎（175庁舎）の一部を間借りして事務所とし、翌春の群新編を見据えた宇宙部隊の態勢整備業務にあたっていました。その後、2022年3月には部隊規模を拡充して宇宙作戦群を新編、2023年3月にはSDA任務を開始するなど、隊員一丸となって歩みを進め、200名を超える部隊となった現在も日々態勢、能力の強化に取り組んでいます。

宇宙作戦群が取り組むSDAとは、「宇宙領域把握（Space Domain Awareness）」のことであり、これは宇宙物体の位置、軌道及び宇宙環境などの把握に加え、宇宙機の運用・利用状況及びその意図や能力を把握することです。今回この場をお借りして、宇宙作戦群がSDA任務に取り組むうえで「日米関係において目指す方向」、「今後の展望」、「乗り越えるべき課題」の3点についてお話しさせていただきます。



Japan-US collaboration at Keen Sword 25

#### ・日米関係において目指す方向

宇宙空間の持続的かつ安定的な利用を確保するためには、一国の努力だけでは不可能であり、同盟国や同志国等との連携強化が必須です。そのような考えのもと、米国とは宇宙政策や戦略に係る連携、SDA情報共有や教育を含む宇宙運用部隊間の連携等、宇宙協力について幅広く議論しています。特に運用面では、空自のシステムを効果的に運用するためには米国との連携が不可欠であることから、米国との情報共有の具体化を進めています。また、米軍が主催する宇宙安全保障に関する多国間机上演習「シュリーバー演習」や宇宙状況把握多国間机上演習「グローバル・センチネル」への参加を継続し、多国間における宇宙空間の脅威認識の共有、SDAに係る協力や宇宙システムの機能保証に係る知見の蓄積に努めているほか、米宇宙コマンドに自衛官を派遣する等、連携・協力を図っています。

#### ・今後の展望

SDA任務の一環として、2026年度までにSDA衛星を打ち上げ予定です。SDA衛星の打ち上げにより、静止軌道上

の宇宙物体の位置や軌道等を把握するとともに、地上設置型の宇宙監視センサーでは把握することが困難な相手方の宇宙機の運用・利用状況及びその意図や能力を把握することが可能となります。

また、宇宙に従事する要員拡充により、宇宙領域把握の為の装備品を安定的に運用する体制を強化するとともに、指揮統制機能などを強化します。将来的には将官を指揮官とする宇宙領域専門部隊を新編し、宇宙作戦能力を強化します。この際、宇宙領域の重要性の高まりと、宇宙作戦能力の質的・量的強化にかんがみ、空自において、宇宙作戦が今後航空作戦と並ぶ主要な任務として位置づけられることを踏まえ、航空自衛隊が航空宇宙自衛隊となる予定です。

#### ・乗り越えるべき課題

課題の一つとして、人材確保と育成が挙げられます。現在、宇宙特技はごく一部を除き、幹部空曹ともに他特技からの転換者となっています。そのような隊員に対し、部外委託教育を受講させたのちに宇宙特技を付与し、部隊での練成訓練等を経て、資格を付与しています。しかしながら、宇宙状況の解析には実務経験等を踏まえた高度な専門的知見が必要であり、相応の期間も必要です。人材の確保にあたっては、役務契約による民間力の活用あるいは、官民人材交流制度の活用や中途採用による人材確保についても検討中です。

#### ・おわりに

宇宙領域の重要性の高まりとともに我々が果たすべき責任はより一層重いものとなり、今や宇宙空間の安定利用を確保することは国家にとって死活問題です。

宇宙作戦群は自衛隊唯一の宇宙領域専門部隊としての誇りと責任感を胸に日々の任務を確実に遂行し、着実に宇宙作戦能力の向上を図っていきます。



Commemorative photo with Gen Whiting, US Space Command commander

# 米空軍将校 航空自衛隊勤務だより

## Letter from USAF Officer Working in Koku-Jieitai

### 第5術科学校

ジョン G ニューマン 少佐

Maj John G. Newman

初めまして、米空軍少佐、ゲイブ・ニューマンです。日本の小牧基地の第5術科学校で勤務しています。この記事では、小牧での私の役割、日本での追加業務、家族、趣味、そして私の経歴などについてお話しします。

まず、自己紹介をさせていただきます。私には妻がいます。愛犬のゴードちゃんもいます。私たちは日本中を旅行するのが大好きで、これまで訪れた中で



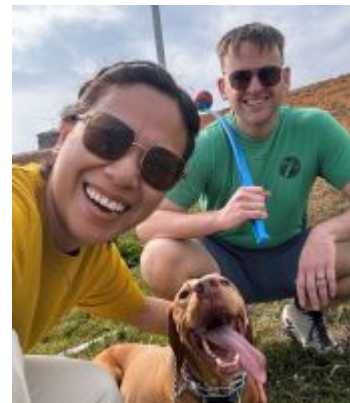
特に印象に残っている場所は、札幌、下呂、福岡、そして東京です。私は野球に興味があり、日本に住んでいる間に、日本にある12のプロ野球球場をすべて訪れることを目標にしています。これまでに既に7つの球場を訪れ、残りの球場へ行くのがとても楽しみです。球場巡りは、私の野球への興味を満たすだけでなく、球場を訪れるのは妻と一緒に日本のさまざまな地域を探索する機会にもなるからです。

また、旅行の際に現地の料理を食べるのも好きです。特に印象的なのは、札幌での新鮮な海鮮や名古屋でのお気に入りのレストラン「岐阜タンメン」のタンメン



です。そして、日本での思い出に残る食事は、札幌のズワイガニラーメン、福岡のもつ鍋、広島のお牡蠣です。美味しい食べ物が多かったため、健康を保つために定期的に運動するようにします。

次に、私の趣味についてお話します。私はランニング、サイクリング、筋トレ、スポーツ観戦、ゲームが好きです。名古屋は夏なので、暑さに耐えられず外で走るのが非常に難しいですが、それ



でも屋内での運動を欠かさないようにしています。また、野球ファンの私はもちろん野球の試合を観戦するのが好きですが、以前、東京の両国国技館で相撲を観戦する機会があり、これも良い経験になりました。妻は相撲観戦をとても楽しんでいて、今では生涯の相撲ファンになったと思います。

さて、ここで少し私の生い立ちについてお話ししましょう。私はアメリカ東部のペンシルベニア州にあるイーストン市という小さな町で育ちました。高校卒業後、ペンシルベニア州の地方にある小さな大学に通いました。その後、ミズーリ州カンザスシティに1年間住んだ後、米空軍士官学校に入学して空軍の士官になりました。

アメリカ空軍の士官になった後、私は特技の兵器管制を学ぶためにフロリダ州ティンデル空軍基地へ赴き、「アンダーグラジュエート空中戦闘管理コース」に参加して、ABM(Advanced Battle Mngement)

の専門技術を学びました。その後、私はオクラホマ州ティンカー空軍基地に配属され、E-3 B/C/G AWACS 機の任務乗員として



勤務しました。ティンカーでは、オペレーション・インヘレント・リゾーブの支援のために中東に3回、対麻薬作戦のために南米に1回派遣されました。

次にアラスカ州エルメンドルフ空軍基地に配属され、E-3 AWACS の電子制御士官として勤務し、主な任

務は本国防衛でした。E-3 AWACS での飛行時間は合計で 2,300 時間以上にのぼり、その中には 990 時間の戦闘時間が含まれています。

そして、アラスカにいる間、私は日本との交換将校の要員に選ばれました。当時、私は日本語を学ぶため、カリフォルニア州モンレー市にある防衛語学研究所 (DLI) へ赴きました。カリフォルニアでは、平日に 10-12 時間、週末に 4-5 時間日本語を勉強し、学習が難航したのを記憶しています。この学校は非常に



厳しく、私は卒業するために莫大な時間と精力を費やしました。そして、日本語のコースを卒業した後、2022 年に現在の勤務先の小牧基地

に配属されました。

小牧基地での主な任務は、第 5 術科学校、第 1 教育部署の支援です。第 1 教育部では航空自衛隊の幹部に兵器管制の基本を教えています。米空軍の兵器管制の作戦を紹介し、彼らがキャリアの中で直面することになると思われる状況に備えられるよう、教育活動を行っています。また、第 5 術科学校で英語教育を担当している部門に対しても、母語話者による英語の授業や日本人教官の英語能力向上等をはじめとする、語学面での支援を頻繁に行っています。また、日本の幹部がアメリカとの交換幹部として選ばれる際には、英語の面接試験 (OPI) の準備を手助けしています。

これに加えて、定期的に浜松基地に赴き、近頃ボーイングか



ら航空自衛隊に納入された電子戦システムの支援を行っています。私は電子戦システムに関する豊富な経験を持っているため、効率的な運用方法についての戦術と手順を確立する手助けをしています。

これらの経験を通じて、私は日本の文化について多く学び、全体的な文化意識が大いに高まりました。文化や風土が全く違う異国の地では、日常生活の構築にさえ大きな労力が必要であり、生活すること自体が非

常に困難です。私は、日本での生活を経てその困難さを理解しているので、アメリカに戻ると、アメリカの習慣や言語に適応しようと奮闘している外国の人々に対して強い共感を持ちます。



仕事を通じて日米同盟を強化することは、私の人生で最大の名誉の一つです。同盟は文書に署名することによって結ばれるものではなく、各国が手を携えて協力し合うことによって築かれるものだと思います。アメリカの人々は日本という国、そしてその人々を友好的な存在として尊敬し、尊重していると私は考えています。共通点の多いアメリカと日本の同盟を築き、その絆をより深くするために努力することが私の使命だと信じています。

日本、そして日本の人々が我々夫婦に対して温かいおもてなしを提供してくださったことに心から感謝しています。日本で得た知識と能力を活かし、両国の協力関係をさらに深められるよう、大いに努めたいと思います。皆様のご厚意に感謝申し上げます。ありがとうございました。



# 航空自衛隊コーナー

## From Koku-Jieitai

### 空軍参謀長等招へい行事（AFFJ）の実施について



10月14日から18日までの間、航空自衛隊は70周年記念行事の一環として、空軍参謀長等招へい行事（Air Force Forum in Japan）を実施しました。期間中、多国間協議「InPACT」（Indo-Pacific Air chiefs Conference in Tokyo）が行われました。本協議は3つのI、「マルチ・ドメイン・インテグレーション」（宇宙やサイバー等の新しい領域や、多様な脅威へ対応しうる能力）、「ヒューマン・インターオペラビリティ」（人と人との繋がり）、「インパクト」（印象に残る議論）を重視し、各国参謀長等は国内外の有識者による講演やパネルディスカッ



ションを通じて相互理解を深めました。また、航空幕僚長内倉浩昭空将が全ての参加国参謀長等との会談を行い、今後も防衛協力・交流を促進して、連携を強化していくことを確認しました。また、入間基地においてC-2輸送機の体験搭乗や各種装備品展示の見学を行い、参加国参謀長等に航空自衛隊の装備品や活動について理解を深めていただきました。その他、AFFJの一環として、一般社団法人日本航空宇宙工業会が主催する国際航空宇宙展（Japan International Aerospace Exhibition 2024）を訪問し、航空自衛



隊を含めた多数の企業や機関等のブースを見学し、日本及び世界の航空、宇宙、防衛分野に関わる技術や製品について理解を深めました。航空自衛隊は、今後も各国空軍種との信頼関係を深化し、連携して地域の平和と安定に寄与してまいります。

（航空自衛隊 HP より）



ハロウィン

作：宇山 OB



# レイモンド元大將、コシンスキー元中将来日

## Welcome to Japan, former Gen Raymond and former Lt Gen Koshinski

令和6年10月28日(月)、退役されたばかりの名誉会員コシンスキー元中將 (Leonard J. Kosinski) が来日した機会に、ニューサンノーホテルにて丸茂会長をはじめとする会員と夕食を共にしながら意見交換を実施した。コシンスキー名誉会員は、安全保障などに関する日本での活動を模索しており、神戸大学や一橋大学の研究所などを訪問された。



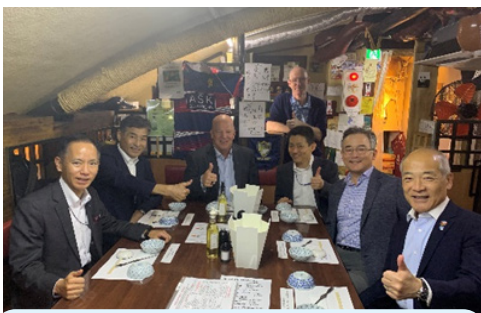
Former Lt Gen Koshinski and President Marumo

本会において、コシンスキー名誉会員から、現在の米国安全保障政策等についてくわしく説明がなされ、とても価値ある時間を過ごした。今後、日本で活動されれば、これまで以上に日米同盟のため、特に空軍種の協力のために多くのアイデアを発想し米国との懸け橋になることは間違いないだろう。



Commemorative photo with former Lt Gen Koshinski

その翌月11月18日(月)には、初代の米国宇宙軍作戦部長 (United States Space Force, Chief of Space Operations) であった名誉会員レイモンド (John W.



The party is full of laughter

Raymond) 元宇宙軍大將が、日本での会議に参加するため来日された。レイモンド名誉会員がお気に入りの東京のお店で、丸茂会長をはじめとする会員と夕食を共にしながら意見交換を実施した。

本会には、航空開発実験集団の装備開発官 (Director General of Aerial Systems, Air Development and Test Command) である現役自衛官の菅井裕之空将補 (Maj Gen Hiroyuki Sugai) をお招きして、米



Mr. Raymond having a friendly chat with the President Marumo

国宇宙軍を創設した立役者であるレイモンド名誉会員から宇宙政策等のアドバイスをいただいた。

また、レイモンド名誉会員は、退役後14社の安全保障関連企業のアドバイザーなどに就任されており、日米協力の要として活躍されている。これこそJAAGAのミッションであり、退役されたばかりの米国宇宙軍トップとの意見交換はとても有意義な時間だった。

このように最近では、日米同盟をさらなる高みへ上げる

べく名誉会員方々が来日して意見交換する機会が増えている。毎年JAAGA訪米団を編成して、米空軍・宇宙軍協会 (Air & Space Forces



Commemorative photo with former Gen Raymond

Association) が主催する航空宇宙サイバーカンファレンス (Air, Space & Cyber Conference) への参加時に名誉会員方々と意見交換をすることは重要なことである。さらに、今回連続して、名誉会員お二方と日本で再会したように、日本の地で、そして日本周辺の安全保障環境の中で意見交換することも重要であると実感する。

(上ノ谷理事記)



## 支部だより From the branch

### 米軍横田基地エアフォース・ボール開催

Air Force Ball at Yokota AB on Oct. 5

米軍創設を祝う横田基地 Air Force Ball が 10 月 5 日（土）18 時から、横田基地内太陽コミュニティセンターにおいて米空軍横田基地司令官主催で開催された。特に今回は米空軍 77 周年と航空自衛隊 70 周年の節目を記念して行われた。



Col Richard McElhaney, 374th Air Lift Wing Commander, gives opening remarks

基地司令第 374 空輸航空団司令官のリチャード・マックエルハニー大佐はその挨拶の中で、軍のコミュニティが一同に会し、空軍の歴史や伝統を祝い、国防に対する過去と現在の功績を称える伝統行事である

エアフォースボールの意義について話をされた。

会は、国旗入場、日米国家斉唱、お祈りの後、太鼓演奏、鏡開き、ケーキカットなど、日米の文化が散りばめられたレセプションとなった。なかでも鏡開きは、木槌で酒樽の蓋を割ることが「運を開く」との意味があることから、日米両国のリーダーによる行事として特に取り入れられているとのことであった。

地元の自治体首長ご夫妻等が多数招待されるとともに、航空自衛隊からは航空総隊司令官鈴木康彦ご夫妻、



JASDF and 374th Air Lift Wing leadership break open a barrel of celebratory Japanese sake

横田基地司令石井浩之ご夫妻等、多数の自衛官等が出席されていた。JAAGAからは、前原、井筒両副会長、村田渉外理事が参加した。

美味しい食事  
に楽しい会話で交友を深めるとともに優雅な音楽に参加者の華麗なダンスが宴を彩り、祝いの宴は夜遅くまで続いた。  
(村田理事記)



(Left to right) Col Richard McElhaney, Mr Bruce Green, Airman Basic Giana Dawkins, CMSgt Kenneth Hauck



JAAGA Vice President Maehara and Izutsu with Col Richard McElhaney and Mrs McElhaney



ハロウィン 2

作：宇山 OB

## 米軍三沢基地エアフォース・ボール開催

Air Force Ball at Misawa AB on Oct. 5

2024 年米空軍創立記念晩餐会（エアフォース・ボール）が10月5日(土)1800から第35戦闘航空団司令官ポール・T. デイヴィッドソン大佐の主催で基地内のミサワクラブで開催され、航空自衛隊からは亀岡北空司令官ご夫妻をはじめ



Opening speech by Col Davidson, Commander of 35FTW

三沢基地所属の皆様、三沢市からは米田三沢副市長（三沢市長代理）ご夫妻及び市の関係者が招待された。JAAGAからは池添支部長と山本事務局長が夫婦で参加した。今回は着席のディナースタイル

で Golden Era “A Toast to 77 years of Air Superiority” 「米空軍最盛期 “航空優勢 ～ アメリカ空軍 77 周年に乾杯”」をキャッチフレーズに開催された。晩餐会が始まる前にソーシャルタイムがあり、1800 からオープニングセレモニーが行われ国旗、軍旗入場、日米国歌、お祈り、来賓紹介、

戦争捕虜及び行方不明者のための祈りをデイヴィッドソン司令官が行われた。デイヴィッドソン司令官は空軍の77歳の誕生日を祝福するとともに、77年間の偉大な空軍の歴史を紹介し、過去の偉業を称えるとともに、これからもこのよき伝統を継承していく決意を語った。歓談では空軍



Air Force 77th anniversary Cake Cutting

創設77周年を祝うケーキカット、空軍歌で晩餐会は終了し、アフターパーティーが行われダンスや演奏で盛り上がりを見せた。

（池添三沢支部長記）



Commemorative photo with Col Davidson and his wife



A lively dinner party



JASDF Northern Air Defense Force Band performance

## 新入会員紹介

正会員（6名）

氏名	住所	氏名	住所	氏名	住所
富永 直幸	神奈川県川崎市	加藤 史彦	埼玉県和光市	濱崎 徹也	東京都北区
柿原 国治	東京都三鷹市	木村 真一	福岡県春日市	森川 龍介	埼玉県所沢市

個人賛助会員（5名）

堀川 典子	栃木県宇都宮市	奥田 修士	埼玉県東松山市	吉田 佳子	東京都世田谷区
青木 健	茨城県取手市	新永 隆一	熊本県熊本市		

## 賛助会員の皆様へ

日頃から JAAGA 設立の趣旨に賛同され当会の活動にご協力いただき、ありがとうございます。三沢基地、横田基地、嘉手納基地の研修に参加された賛助会員の皆様には、当方から所感文の寄稿をお願いし、研修の意義のみならず JAAGA の多様性をも噛みしめられるような味わい深い所感を頂戴しているところです。

このような寄稿に加えて、法人、団体、個人の賛助会員の皆様からの投稿も、幅広く募集しております。

テーマは自由、1 件につき JAAGA だより 1 ページ以内程度（400 ～ 2,000 字程度）、写真、図表等を含めていただいても結構です。細部要領等は広報係からご連絡いたします。

JAAGA 入会に至った経緯、企業・団体の概要、個人の活動等の概要、JAAGA に対する要望、航空自衛隊・米空軍に対する貢献活動等、日米現役隊員に対する期待・激励等、思うところを自由にお書きください。

賛助会員の皆様の積極的な投稿をお待ちしています！

### 【法人会員の皆様】 31 社

株式会社 IHI、株式会社 IHI エアロスペース、株式会社石橋オフィスサポート、伊藤忠商事株式会社、株式会社エクシオテック、沖電気工業株式会社、川崎重工業株式会社、株式会社シー・キューブド・アイ・システムズ、株式会社 SUBARU、住友商事株式会社、双信商事株式会社、双日株式会社、東京航空計器株式会社、東芝インフラシステムズ株式会社、日本電気株式会社、日本飛行機株式会社、ノースロップ・グラマン・ジャパン、藤倉航装株式会社、富士通株式会社、株式会社フジワラ、渕上建設工業株式会社、Boeing Japan 株式会社、丸一土地建物株式会社、丸紅エアロスペース株式会社、三菱重工業株式会社、三菱商事マシナリ株式会社、三菱商事株式会社、三菱電機株式会社、三菱プレジジョン株式会社、株式会社武蔵富装、ロッキードマーティン グローバル インコーポレーテッド

### 【団体賛助会員の皆様】 2 団体

ハイフライト友の会、三沢市防衛協会

### 【個人賛助会員の皆様】 109 名

## 投稿募集のご案内

日米エアフォース友好協会（JAAGA）は、お陰様で令和 8 年 7 月 5 日で創立 30 周年を迎えます。日米同盟の深化進展に伴い、日米両軍の絆はより強固なものに発展してまいりました。「JAAGA だより」も、JAAGA 活動の広報と空自、米空軍のサポーターとしての役割を、より一層充実発展させていきたいと考えています。

ご愛読の皆様（会員に限らず現役隊員の皆様）からの投稿は大歓迎です。また、皆様の忌憚のないご意見やご感想も是非お寄せいただきたくお待ちしております。

【連絡先】（郵便） 〒160-0002 東京都新宿区四谷坂町 9 番 7 号

ZEEKS 四谷坂町ビル 3F

日米エアフォース友好協会 広報係

## JAAGA グッズの紹介

日米現役の皆さんを応援する「JAAGA だより」を更に多様性に富んだ充実したものにするために、会員の皆様の投稿を募集しています。投稿頂いた方には記念として、「JAAGA グッズ」（男性にはタイピン、女性にはピンブローチ）を謹呈させていただきます。

JAAGA 広報係



## 会員募集

- 今期は、関係各位のご努力で、新たに正会員 6 名、個人賛助会員 5 名の合計 11 名の入会を得ることができました。
- 令和 6 年 12 月 1 日現在、正会員数 256 名、個人賛助会員数 109 名、団体賛助会員数 2 団体、法人賛助会員数 31 社となっております。
- 今後とも、会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を是非とも宜しくお願い致します。なお、本会への入会につきましては、次のとおりです。  
推薦、若しくは、情報提供を頂いた方には直接会員担当理事から連絡させていただきます。

### 【入会資格】

正 会 員：航空自衛隊の OB

賛 助 会 員：航空自衛隊の OB 以外の方。正会員 3 名の推薦が必要です。

### 【連絡先】

郵 便：〒160-0002

東京都新宿区四谷坂町 9-7 ZEEKS 四谷坂町ビル 3F

日米エアフォース友好協会 会員係

メール：membership@jaaga.jp

## 編集後記

◇編集作業（編集長）◇航空自衛隊は、日米同盟を中心として海外の同志国との交流や演習等を通じてお互いの絆を強めています。中谷新防衛大臣は、防衛大学校ラグビー部の出身であり「絆」を重んずる方ですので、これからも様々な形で防衛交流を継続し各国とスクラムを組んで連携を図っていくことでしょう。◇JAAGA は年度計画の見直しを実施し、中身の濃い活動を実施継続していく所存です。機関紙として「JAAGA だより」を少しでも多くの方に読んでいただき、ご理解いただくよう広報担当一同努力してまいります。

◆夏からいきなり冬になったような急激な季節の移りでした。体調を狂わせないよう精進していきたいと思えます。(A)

◆山本康正 OB にいつも描いていただいています干支のイラスト「日々笑進」も今回で 10 年目・20 号目となりました。JAAGA 役員一同深謝いたしますとともに、これからも引き続きよろしくお願ひ申し上げます。(I)

◆空自創設 70 周年となり、多くの部隊も 60 年という大きな節目を迎えています。「還暦」、新たなスタートです。かつてない厳しい情勢下、新たなスタートを切る現役の皆様にも少しでも力添えできるよう活動して参ります。(O)

◆記事作成、編集、校正には多大な労力を要しますが、いまや取材メモと写真などのデータを入力すれば生成 AI ですべてができるかも。味気ない感じではありますが。(S)



作：山本康正 OB

編集担当（広報理事）：浅井玲、池田五十二、太田徹、菅原政弘）

JAAGA だよりは、ホームページからもご覧いただけます（創刊号から第 49 号までは「20 年の歩み」に掲載）。

（JAAGA ホームページ：http://www.jaaga.jp/）